

令和 4 年 6 月 9 日現在

機関番号：32643
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：18K00292
研究課題名（和文）中間小説誌の研究 - 昭和期メディアの読者獲得戦略 -

研究課題名（英文）Study of Chukansyouseusi

研究代表者
牧野 悠 (Makino, Yu)

帝京大学・理工学部・講師

研究者番号：50571626
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究事業は、中間小説誌が出版市場に定着し、膨大な読者を擁するメディア群にまで成長する過程で企図された、雑誌及び作家たちの読者獲得を目的とする戦略を対象に調査・分析を行った。特に注目したのが、この期間に興隆したジャンルにおける、文学的素養を持つ読者に訴求するための試みと、掲載誌の性格を意識して執筆方針を変化させる作家に関する問題系である。これらにより、雑誌・作家・読者が相互に干渉して昭和期メディアが展開した実態の一端が明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

戦後日本における娯楽の一形態として広く受容された中間小説誌の分析は、日本の「戦後」を文化的に規定する一つの巨大な底流を明らかにする手がかりとなる。こうした視点で研究を進めることは、他学問領域である歴史学やメディア研究における占領期や高度経済成長期に関する成果とも繋がり、学際的な相乗効果が期待できる。また文学研究の中でも、作家ごとの考察に蛸壺化しがちな日本戦後文学研究に、接続点をもたらす契機たり得るだろう。

研究成果の概要（英文）：This research project investigated and analyzed the strategies used by magazines and writers to gain readers during the process of the establishment of Chukansyouseusi in the publishing market and their growth into a media group with a huge readership. Particularly noteworthy findings were the writers' attempts to appeal to readers with a literary background in the genre that flourished during this period, and the issues related to the changes of writing policies of some writers in response to the characteristics of the magazines in which they were published. These findings revealed some aspects of the actual situation in which magazines, writers, and readers interfered with each other in the development of the Showa-era media.

研究分野：日本近現代文学

キーワード：メディア研究 昭和史 近代文学 日本文学

1. 研究開始当初の背景

(1) 関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ

近年日本近代文学研究において、読者を獲得する要素として文学をとらえ、出版メディアの作家や作品に対する眼差しを探る研究が盛んである。たとえば庄司達也他編『改造社のメディア戦略』は、1920年代に着目、出版メディア側の要望と、作家たちによる反応・協力の焦点を当てており、資料公開の方法も含め、参考とすべき点が多くある。また、読書調査などの資料から具体的な読者像を浮かび上がらせた佐藤卓己『キングの時代』及び永嶺重敏『雑誌と読者の近代』の方法も本課題においても効果を発揮すると考えられる。

(2) これまでの研究活動

本研究課題の参加者たちは、「中間小説」を、戦後から高度経済成長期にかけ、文壇・メディア・市場が連動することにより、日本社会へ浸透するに至ったきわめて広範な現象と認識し、中間小説誌全体の調査を試みてきた。基盤研究(C)「中間小説誌の研究 昭和期メディア編成史の構築に向けて」(代表者：小嶋洋輔、平成24～26年度)を中核とする研究成果から、中間小説誌は、以下のような三段変容を遂げていたと結論できる。すなわち昭和24年(出版不況と淘汰、中間小説誌市場の自律化)、昭和29年(倶楽部雑誌の退場、中間小説誌の大衆化)、昭和36年(社会派推理小説隆盛と風俗作家のフェイドアウト)である。そして中間小説誌を現象としてみることで、読者層と雑誌メディアが段階を経て変容しつつ相互干渉していく、昭和期のメディア編成そのものの大きな展開が明らかとなった。

2. 研究の目的

本研究は、上記基盤研究(C)において、昭和期メディア史に位置付け直した「中間小説誌」を対象に、読者獲得を目的とする編集戦略に重点化し、さらに考察を深めるものである。掲載作品だけではなく、従来は等閑視されていた非小説コンテンツも検討し、中間小説誌の戦略という視点から、昭和期メディア編成の実態をさらに精緻に浮かび上がらせる。

- (1) 掲載された小説作品と読物コンテンツ
- (2) 挿絵・グラビアなど視覚的コンテンツ
- (3) 投稿企画からうかがえる読者の実態
- (4) 競合他誌の盛衰に起因する誌面の変遷

以上を対象に調査・分析する。これらの成果に基づき、誌上に掲載されたコンテンツ間の相互作用を解析し、昭和期メディアが対象とした読者層の推移と読書行為の内実を明らかにする。

いわゆる純文学雑誌と異なり、小説だけでなく中間読物、グラビアといった多様なコンテンツを掲載するところに中間小説誌の特徴がある。また、誌面構成に関しては、先行する倶楽部雑誌との間に明確な差異を認められる。作品や挿絵などには、受容者に能動的解釈を要求する趣向を認められ、それを好意的に受け止める読者への視座を発展・拡大すれば、昭和期娯楽雑誌市場における新たな「教養主義」をより精緻に記述できる。

こうした問題意識に基づき、グラビア、挿絵、読者投稿欄、広告といった非小説コンテンツの網羅的な調査と、掲載された小説作品の分析とを接続させ、昭和期娯楽雑誌メディアが争奪した読者の実態とはいかなるものであったかを明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 挿絵、グラビアなど視覚コンテンツを含む誌面調査

雑誌の目次、読者欄、表紙、編集後記などに加え、挿絵、グラビア、特集記事なども収集調査する。挿絵の分析においては、時代小説、社会派推理小説など、各ジャンルの特色を考察する。

(2) 投稿企画からうかがえる読者の実態解明

「読者の声」欄の位置を問い返し、「読者」側からの言説を分析する。同欄で話題となった記事や小説作品の位置を分析し、戦後の中間小説誌ブームを支えた読者の実態を探る。また雑誌編集の戦略を相対化するために各年代を代表する作家を数名取り上げ、連載と「読者の声」、グラビアの連関などを探る。

(3) 掲載作品と出版戦略との関係性の分析

中間小説誌を代表する作家の雑誌掲載作品の特徴を、作家側が想定する読者像を同時代言説などから分析し、他方「読者の声」欄における読者の反応まで含めて各論として考察を行う。それを実際の誌面構成と対比し、出版メディアの戦略の変遷や勢力の盛衰を明らかにする。

4. 研究成果

(1)参加研究者による共同研究

新型コロナウイルスの流行により移動や施設利用が制限されたため、大規模な文献調査が困難となり、当初予定していた共同での学会発表は断念せざるを得なかった。しかし、2019年までに収集した資料を活用し、中間小説誌の「御三家」である『オール讀物』の昭和30年代目次を翻刻した。これにより、戦前期に創刊された娯楽雑誌が、中間小説誌市場の自律化以降、いかなる編集方針で代表的雑誌の地位を堅持したかが概観可能となった。剣豪・忍者ブームや社会派推理小説の台頭など、くり返し読書界に到来した流行を取り入れつつも、誌名に変わらず最大限多彩なコンテンツを包摂し、広範な読者層に訴求した。こうした戦略により、『小説新潮』及び『小説現代』とともに、合計発行部数100万部といわれる中間小説誌の黄金時代が築かれたのである。

(2)参加研究者による個別研究

コロナ禍による調査活動の制限に伴い、事業期間を1年間延長申請するとともに、目的達成のための各参加者の個別研究を中心とする方針に転換し、研究を遂行した。以下、年度ごとの成果を詳述する。

2018年度

牧野悠は、中間小説誌における時代小説ジャンルを考察する目的から、山田風太郎作品を対象に調査・分析を行った。本研究では、週刊誌と月刊小説誌の編集方針及び読者層の差異に対する意識が、「風太郎忍法帖」シリーズの展開に与えた影響を指摘した。

小嶋洋輔は、第三の新人による純文学誌に掲載された私小説作品と、中間小説誌に発表されたエッセイとの関係性を解析した。中間小説誌に発表されたエッセイとの関係性を解析した。小嶋は基盤研究(C)「私性の調査と自己語り ジャンルとの比較による日本「私小説」の総合的研究」の研究分担者でもあるため、私小説ジャンルの変容に中間小説誌が果たした役割という独自の視座から検討し、2018年度日本近代文学会秋季大会において発表した。

高橋孝次は、大木志門・掛野剛史とともに水上勉に関する聞き取り調査を実施した。

2019年度

牧野悠は、中間小説誌において人気の高かったジャンルである時代小説の考察を継続した。特に、中間小説誌の書き手を多数輩出した長谷川伸を中心とするグループ「新鷹会」と、その機関誌『大衆文藝』の調査に基づく論攷を、共著書に発表した。

小嶋洋輔は、本土復帰期以降沖縄県で力を持っていた総合誌『新沖縄文学』に着目し、同時代作品に描かれた貧困問題との関係について考察した。また、近年の中間小説を対象とする研究動向をまとめた。

高橋孝次は、中間小説誌及び周縁に位置する雑誌群を舞台とするメディアイベントとしての文学賞について、昭和文学会第64回研究集会において発表した。また、研究分担者として参加する基盤研究(C)「水上勉資料の調査による戦後文学の総合的研究」の成果である学会発表および共著書にも、本事業で獲得された資料が活用されている。

2020年度

小嶋洋輔は、最後発の中間小説誌といえる『小説セブン』に着目し、掲載された遠藤周作作品と雑誌の性格との関係性を考察した。

高橋孝次は、水上勉の仏教思想をテーマとする作品を中心に分析した。

2021年度

牧野悠は、中間小説の前史について調査し、娯楽小説雑誌の勃興期における主な時代小説作家を対象とする論攷を、共著書に発表した。また、戦後の時代小説ジャンルを牽引した作家である五味康祐と柴田錬三郎に関する研究と、雑誌に掲載された時代小説作品のテキストと挿絵との関係性に関する分析を行った。これらの成果は、次年度以降に刊行される書籍に発表される予定である。

小嶋洋輔は、戦後沖縄メディアと大城立裕について調査・分析し、文学賞選考委員としての大城の姿を浮び上がらせた。この成果は、次年度以降に刊行される書籍に発表される予定である。

高橋孝次は、引き続き水上勉を対象に分析を進め、大木志門・掛野剛史とともに共編の短編小説集を刊行した。さらに、収録作品の解説において、アクチュアルな社会問題と、自身の私的な体験を接合してフィクションを生成する手法の特徴について指摘した。

参考文献

- 佐藤卓己『キングの時代 国民大衆雑誌の公共性』(岩波書店 2002年9月)
庄司達也・中沢弥・山岸郁子編『改造社のメディア戦略』(双文社出版 2013年12月)
永嶺重敏『雑誌と読者の近代』(日本エディターズスクール出版部 2004年2月)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 牧野悠、小嶋洋輔、高橋孝次、西田一豊	4. 巻 第27号
2. 論文標題 【史料紹介】昭和三〇年代の『オール讀物』 中間小説誌総目次（下）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 帝京大学宇都宮キャンパス研究年報人文編	6. 最初と最後の頁 202-262
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 小嶋洋輔	4. 巻 13
2. 論文標題 遠藤周作と中間小説誌の時代 - 『小説セブン』との関わりを中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 遠藤周作研究	6. 最初と最後の頁 18-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小嶋洋輔	4. 巻 1号
2. 論文標題 戦後沖縄県の文学と「貧困」「復帰」以降を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 環太平洋地域文化研究	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 牧野悠、小嶋洋輔、高橋孝次、西田一豊	4. 巻 第25号
2. 論文標題 【史料紹介】昭和三〇年代の『オール讀物』 中間小説誌総目次（上）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 帝京大学宇都宮キャンパス研究年報人文編	6. 最初と最後の頁 201-252
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小嶋洋輔	4. 巻 第80集
2. 論文標題 研究動向「中間小説」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 昭和文学研究	6. 最初と最後の頁 170-173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧野悠	4. 巻 第24号
2. 論文標題 笑いのリベンジ 山田風太郎「忍法相伝73」から「笑い陰陽師へ」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 帝京大学宇都宮キャンパス 研究年報 人文編	6. 最初と最後の頁 217-238
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 掛野剛史・大木志門・高橋孝次	4. 巻 第18号
2. 論文標題 浦和時代の水上勉 内田潔氏に聞く	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 埼玉学園大学紀要 人間学部篇	6. 最初と最後の頁 429-449
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 高橋孝次
2. 発表標題 「民主的な方法」としての読者投票 戦後大衆文芸誌による文学賞設置の試み
3. 学会等名 昭和文学会(第64回研究集会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大木志門、掛野剛史、高橋孝次
2. 発表標題 社会派としての水上勉
3. 学会等名 シンポジウム「水上勉の時代」（福井県ふるさと文学館・科研費研究「水上勉資料の調査による戦後文学の総合的研究」共催）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 水上露子、大木志門、掛野剛史、高橋孝次
2. 発表標題 敗戦直後の再出発 文芸編集者としての水上勉
3. 学会等名 日本編集者学会（第14回日本編集学会セミナー）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小嶋洋輔
2. 発表標題 島尾敏雄と「沖縄県」 昭和50年代の沖縄滞在資料から
3. 学会等名 沖縄文化協会2018年度公開研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 梅澤亜由美・大木志門・河野龍也・小林洋介・尾形大・小嶋洋輔
2. 発表標題 「私小説」をどのように考えるか？ 私小説性 概念による再検討の試み（パネル発表）
3. 学会等名 2018年度日本近代文学会秋季大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 筒井清忠、今野元、牧野邦昭、藤田正勝、大山英樹、小谷野敦、山折哲雄、川本三郎、河原和枝、石川桂子、田中智子、難波知子、竹田志保、藤井淑禎、牧野悠、宮本大人、佐藤卓己、橋爪節也、倉田喜弘、岩本憲児、神野由紀、老川慶喜、伊井春樹、齋藤光	4. 発行年 2021年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 512
3. 書名 大正史講義【文化篇】	

1. 著者名 水上勉（著）、大木志門・掛野剛史・高橋孝次（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 田畑書店	5. 総ページ数 464
3. 書名 水上勉社会派短篇小説集 不知火海沿岸	

1. 著者名 水上勉（著）、大木志門・掛野剛史・高橋孝次（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 田畑書店	5. 総ページ数 401
3. 書名 水上勉社会派短篇小説集 無縁の花	

1. 著者名 水上勉、高橋孝次	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 208
3. 書名 「般若心経」を読む	

1. 著者名 筒井清忠、牧野邦昭、苅部直、佐々木閑、赤坂憲雄、千葉俊二、前田雅之、藤井淑禎、伊東祐吏、牧野悠、竹田志保、川本三郎、林洋子、萩原由加里、井上章一、片山杜秀	4. 発行年 2019年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 304
3. 書名 昭和史講義【戦前文化人篇】	

1. 著者名 大木志門、掛野剛史、高橋孝次	4. 発行年 2019年
2. 出版社 田畑書店	5. 総ページ数 336
3. 書名 水上勉の時代	

1. 著者名 井原あや、梅澤亜由美、大木志門、太田翼、大原祐治、尾形大、小澤純、金子亜由美、康潤伊、鬼頭七美、黒田俊太郎、河野龍也、小林洋介、小嶋洋輔、嵯峨景子、竹田志保、多田蔵人、立尾真士、田中祐介、富塚昌輝、山根龍一、佐伯一麦、青木淳悟、水村美苗	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 480
3. 書名 「私」から考える文学史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>中間小説誌の研究 昭和期メディア編成史の構築に向けて http://chuukansyosetu.web.fc2.com</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小嶋 洋輔 (Kojima Yosuke) (50571618)	名城大学・国際学部・教授 (28003)	
研究分担者	高橋 孝次 (Takahashi Koji) (20571623)	帝京平成大学・現代ライフ学部・講師 (32511)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	西田 一豊 (Nishida Kazutoyo)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関